

水族館へ行こう!

73

白山 義久

京都大学白浜水族館

ウォールケースの中にサツマハオリムシという奇妙な蠕虫(ぜんちゅう)が標本展示されている。この動物には消化管がない。ではどうやって「餌」を食べているのだろうか。答えは、体内に共生している硫黄酸化細菌である。

この共生細菌が、硫化水素を酸化して硫酸にする。その時発生する化学エネルギーで二酸化

炭素と硫化水素に含まれる水素を使って有機物をつくらせている。サツマハオリムシの故郷は鹿児島県の錦江湾である。若尊カドララと呼ばれる海底火山の周辺の通称「たぎり」という海底

分子生物学の発展で変わる動物門

のに使っハイポである。世界で最初のハオリムシの発見は1970年代で、当時は新「動物門」が発見されたと大騒ぎになった。しかし、その後ヒゲムシ(有鬚へゆうしゅ)動物の仲間とされた。さらに、分子生物学的な研究の結果、有鬚動物はゴカイの仲間である環形動物の一部であることが分かった。

(京都大学瀬戸臨海実験所長)



ウォールケースの中にあるサツマハオリムシの標本